

発掘だより No. 28

平成9年3月16日(日)

豊川市教育委員会 生涯学習課 発行

豊川市諏訪1丁目1番地

☎ (0533)89-2158 (直)

三河国府跡第8次調査現地説明会資料

政庁の可能性の考えられる建物群を確認!

平成3年から始めた三河国府跡確認調査も今年で6年目を迎え、調査回数では8回目の調査となります。

今までも数々の発見があり、三河国府跡の様相がおぼろげながら分かってきました。

過去の成果をまとめてみると、総社西地区で検出された大型の掘立柱区画施設(塀もしくは柵)や、総社境内地で確認された全長117mにも及ぶ区画のための堀などが挙げられます。

これらの成果などを考え合わせると、国府の中心部分(政庁域)は総社から曹源寺の境内地にかけてが有力視されてきました。

また、昨年(平成8年)の第7次調査で、曹源寺本堂前のトレンチで雨落溝を伴う建物跡が検出されたため、この地点に大型の建物が存在することが予想されました。

このことから今年度は、曹源寺前の建物跡の規模・性格等の解明を主眼に置き、またその周辺にも他の建物が存在するかを確かめるための調査を行っています。

1月13日から約2ヵ月をかけて調査を行った結果、政庁の可能性の考えられる建物跡が2棟と「国厨(くにのくりや)」と墨書された土器などが確認され、今回の調査地点が三河国府跡の中心部分である可能性が非常に高くなりました。

それでは確認された遺構・遺物をみとめることにしましょう。

◎ 正 殿（S B 501：曹源寺本堂前調査区 MT-1～5）

昨年、雨落溝の確認された建物跡を今年度は面的に広げ、性格・規模等を探る調査を行いました。

調査の結果、東西22.3m、南北推定12mの非常に規模の大きな建物であることが判明しました。またこの建物は、ほぼ同じ場所で2回建て替えられていることが調査を進めるなかで分かってきています。このうち、1期と2期の建物は、掘立柱建物と呼ばれる建物で、直接地面に穴を掘り、柱を据え付ける工法で建てられており、3期の建物は石の上に柱を乗せる礎石建ての建物であることが確認されました。残念ながら礎石は残っていませんでしたが、礎石を支える根石が検出されたものがあります。

この掘立柱建物から礎石建物への変遷は、各国の政庁の調査例ともほぼ合致してきます。

建物規模、変遷過程、位置関係などを考え合わせると正殿の可能性の高い建物です。

◎ 後 殿（S B 502：曹源寺本堂西側調査区 MT-1）

曹源寺本堂西側で、南北3箇所（2間）、東西3箇所（2間）の掘立柱建物の柱穴を確認しています。東西に長い建物になるものと考えられますが、残念ながらそのほとんどは本堂の真下にあたります。

建物規模は、南北が約4.8m、東西は推定で約23mと考えられます。この建物についても1回建て替えられていることが確認され、2期ともに掘立柱建物です。礎石建物の時期があった可能性も考えられますが、礎石や根石等の痕跡は確認できませんでした。

建物の性格は、後殿の可能性が高いと考えられます。

◎ 墨書土器（廃棄土坑 S X 501出土：曹源寺北側調査区 LT）

曹源寺北側調査区の北端から検出された廃棄土坑（当時のゴミ捨て場）から出土した須恵器に、墨で書かれた文字が見つかりました。今までに7回の調査を行っていますが、墨書土器が出土したのは今回が初めてです。

墨書土器は3点確認されており、3点とも同じ「国厨（くにのくりや）」と書かれてありました。

「国厨」とは国庁の厨房という意味で、国庁（政庁）で行われた饗宴の料理を作るための部署です。当時は「国厨家院」と呼ばれる独立した組織で、政庁に近接した場所に設けられたようです。

この墨書の出土で、今回の調査地点が政庁である可能性が高くなったと言えます。

墨書の書かれていた土器は、須恵器とよばれる窯で焼いた土器で、8世紀末～9世紀初頭の今から約1200年前のものです。

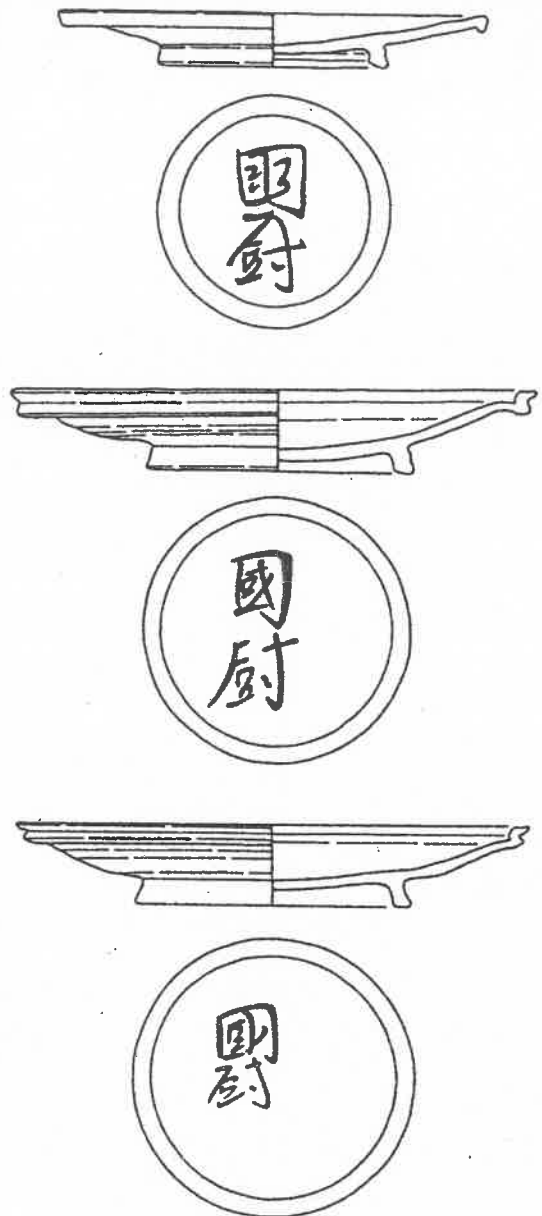
◎ 今後の調査に向けて

今回の調査で、正殿と後殿と考えられる建物が確認されたことにより、曹源寺を中心とした地点が、国府政庁である可能性が濃厚になってきました。

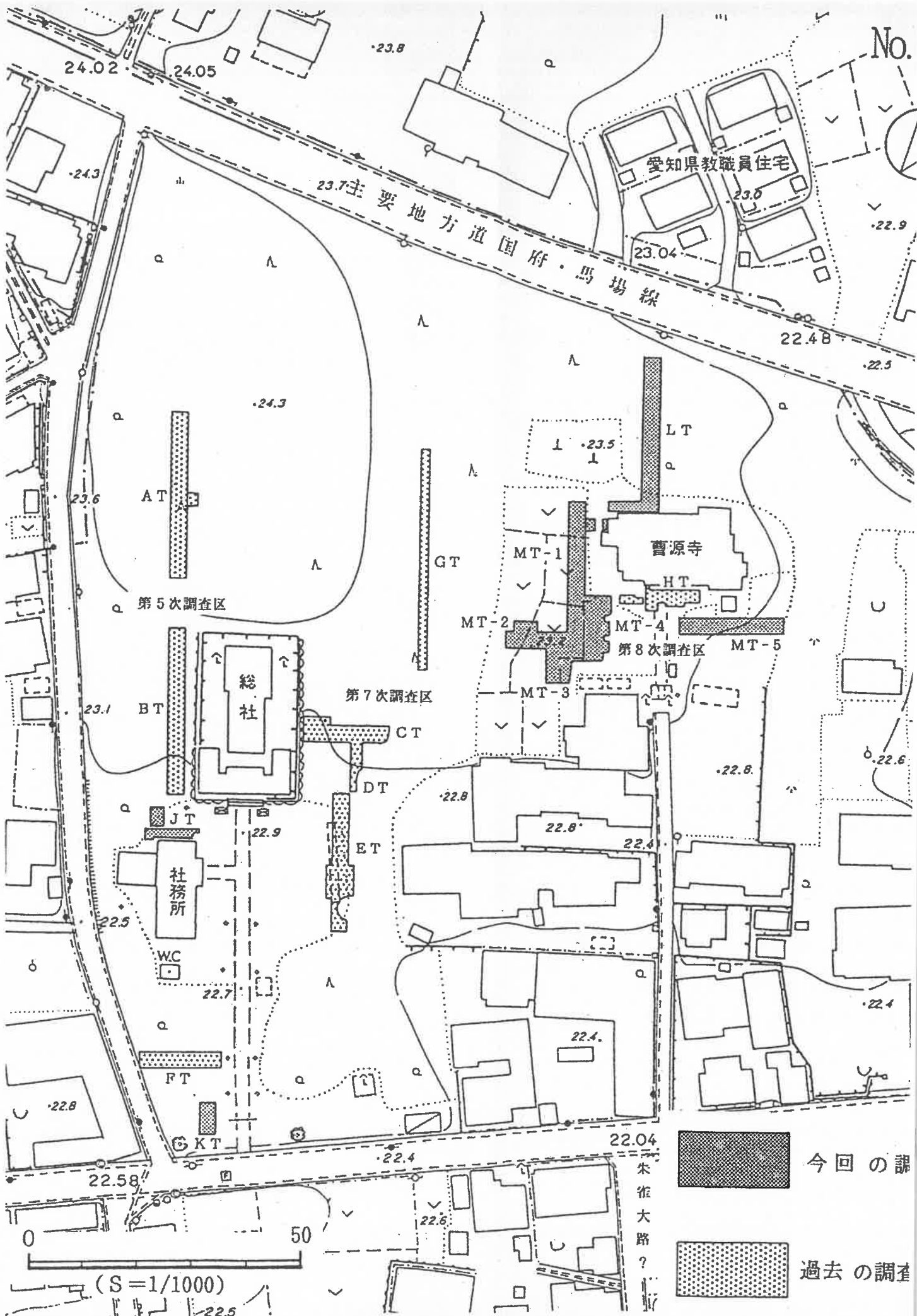
今後の調査の進め方としては、政庁の場所がほぼ特定できたことにより、これからは、政庁の建物配置や時期特定などの構造解明を主目的とした調査を行っていきたいと考えています。

具体的には、未だ確認されていない東脇殿、西脇殿、前殿といった建物の位置特定と政庁を囲んでいるはずの区画施設の検出などを行い、それぞれの建物が、いつからいつまで建っており、何回建て替えられたかなどを細かく調査していきたいと考えています。

最後に、今回の調査で予想以上の成果があがりましたことは、曹源寺、総社関係のみなさま始め、地元の方々のご協力があつてこそです。心から感謝申し上げます。



廣葉土坑SX501出土墨書土器



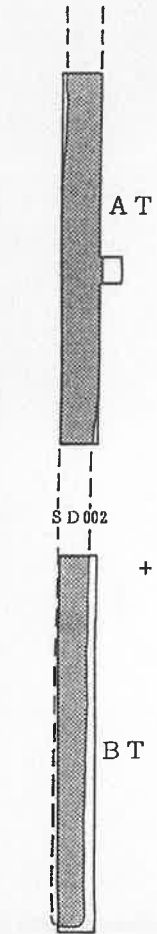
三河国府跡確認調査全体図

Y=15500
+

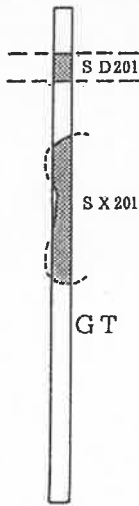
+

S X 501 (廃棄土坑)

Y=15800
+ X=129400



外郭官衙域？



S X 503 (廃棄土坑)

S B 502 (後殿)

曹源寺

MT-1

MT-4

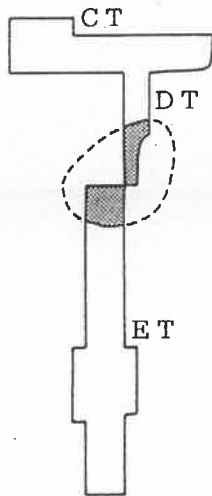
MT-5

MT-2

MT-3

S B 503

総社



西脇殿？

前殿？

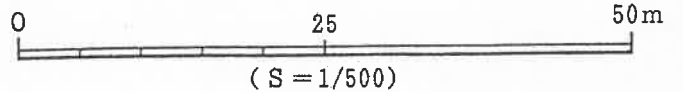
東脇殿？



+

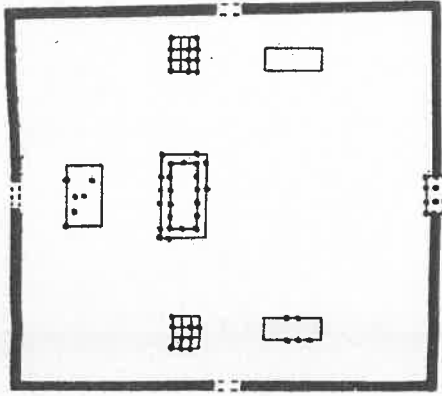
+

+ X=129500

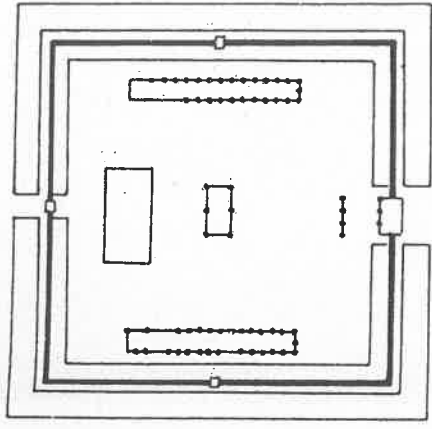


遺構全体図

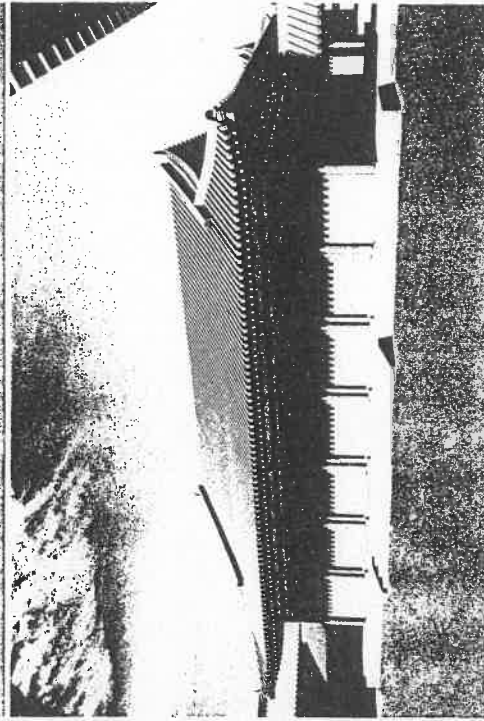
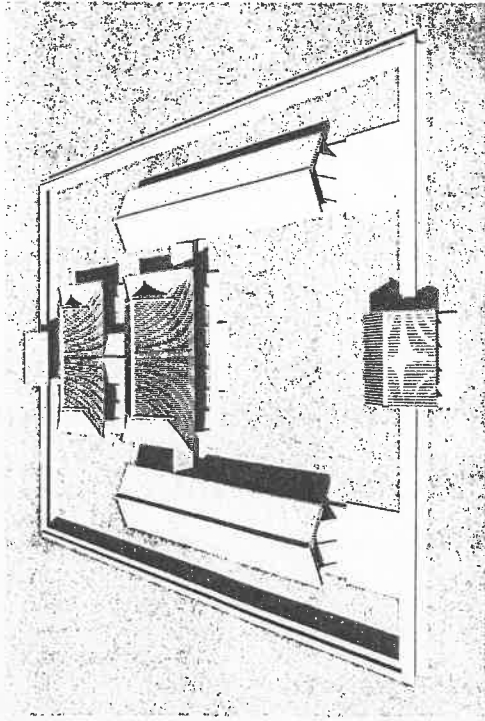
参考 各国の国府政庁（国庁）



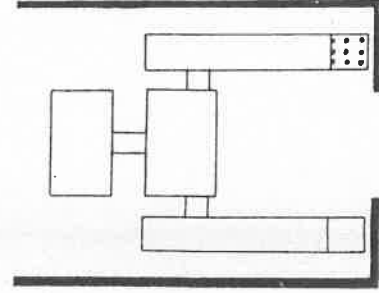
多賀城政庁



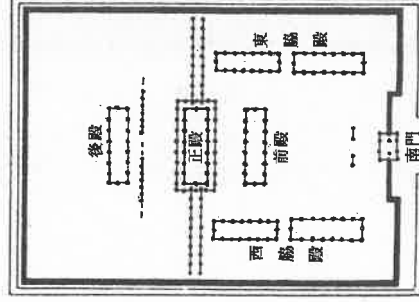
下野国府政庁



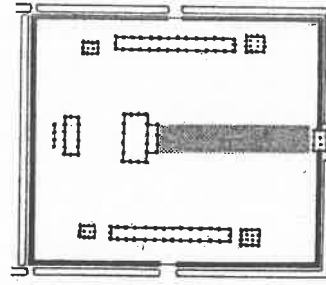
近江国府政庁想像図（大津市歴史博物館『近江の古代を掘る』より）



近江国府政庁



肥前国府政庁



伊勢国府政庁

※ この他にも最近の調査で、伊勢国、伊賀国、美濃国などでも政庁が確認されています。

